

くれる人が、またひとりふえるかもしれ
ません。」

知重の愛機あいきは、ふたたび離陸りりくした。

「大きい希望をいだく人が、この飛行機を
ながめている人たちの中から生まれるの
だ。その人たちが、これからの時代を進
歩させていく。すばらしいことだ。」

知重は、芝山しばやまの山ちようをまわりながら、
地上の人々に思いきり手をふった。

知重の頭の中には、新しい時代のようにす
が広がっていた。

|| みんなのわき水

こうちゃんの町は、中央に川が流れ、木々の緑が美しく自然しぜんが
いっぱいです。そんな町の外れに、県内でも有名なおいしい水が
わき出ていました。こうちゃんは毎日のように、このおいしい水
をペットボトルにくんで、家に持って帰りました。

ある秋の日のことです。いつもとはちがう時間に、こうちゃん
は友だちのけんちゃんと、わき水の所にやって来ました。

「うわっ、これはひどいや。」

と、けんちゃんが指をさしました。

見ると、ふだんはきれいになっているわき水の所に、たくさん
の葉が落ちていました。

「これじゃ、水をくめないね。」

「うん……。」

こうちゃんは、こまった顔をしています。

「いつもきれいなのにね。今日はおかしいな。」

「いつもより早く来たからなあ。」

「だれかがそうじするんだよ、きっと。」

「そうかもしれないね。あそこにほうきもあるし。」

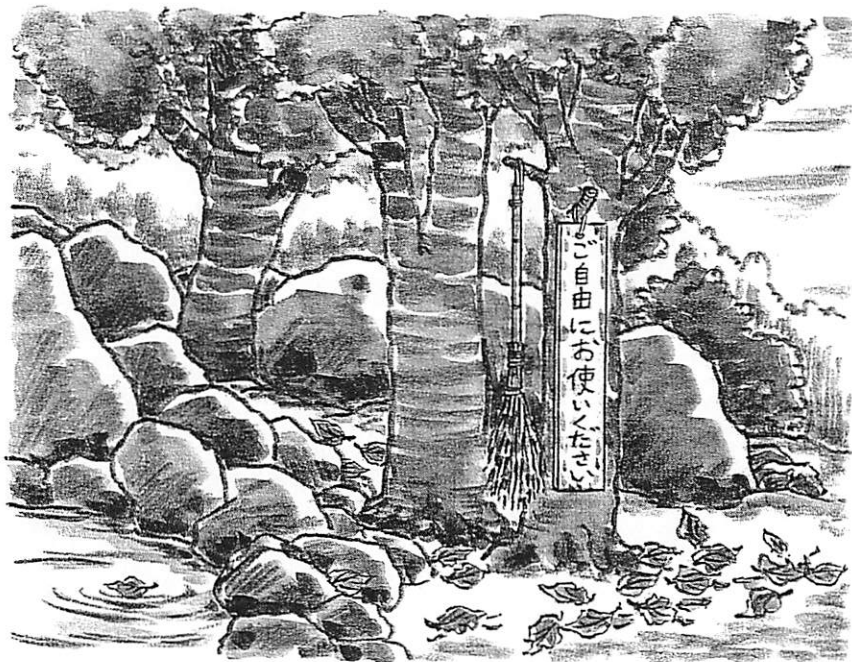
見ると、そばにある木に、ほうきがぶらさがっています。

ご自由にお使ください。

ほうきの横にあるふだに、そ
う書いてありました。

「どうする。こうちゃん。」

しばらくだまっていたこう
ちゃんが、わき水が出ているま
わりを、ほうきでもくもくとは
き始めました。それを見たけん
ちゃんも、水にういている葉を、



一まい一まいいていねいに取り出
しました。

二人のひたいにうつすらとあ
せが見えてきたころ、やっとき
れいにするのができました。
そして、すきとおるようにな
いになったわき水を、二人は、
満足まんぞくそうにしばらく見つめてい
ました。

こうちゃんたちが、ほうきを
もとにもどして、水をくんで帰

ろうとすると、小さな女の子を
つれた父親がやって来ました。

「お父さん、水がとってもきれ
い。」

女の子は、手ですくっておい
しそうに飲み始めました。

そんな親子を見ていると、こ
うちゃんは、ほうきがなぜここ
におかれてあるのか、分かるよ
うな気がしました。



11 みんなのわき水

4—(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。(規則尊重、公德心)

1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

「社会のルールを大切にできる心」の育成は、子どもたちが学校生活に慣れ、親しみ、充実させていくことと直接結びつく事柄である。そして、社会の一員としての自覚をもち、進んで集団や社会にかかわり、豊かに自己形成を図る上で、基本となるものである。

「公德心」は、自分がこの世、この社会に一人で生きているのではなく、人と人がもちつもたれつしながら、共にかかわり合いながら生きているという自覚によって初めて湧き出るものである。自分だけ都合よければ他人のことは知らないといった、自己中心的な考えからは生まれない。人に優しく、温かい社会を形成するためにぜひ身に付けさせたいものである。

〈子どもの実態について〉

公共の場の汚れは、汚した人が明らかでない場合が多い。それ故に、この期の子どもは、それを何とかしようと考え付かない場合が多い。

公德について十分に考えさせ、社会の一員として、なすべきことは何かに目を向けさせたい。

2 資料について

こうちゃんの町のはずれには、おいしい水がわき出る場所がある。ある日、わき水をくもと友達と出かけたこうちゃんは、わき水がくめないほどたくさん葉が落ちていているのを見る。

近くの木には、ほうきがぶら下がっており、その横に「ご自由にお使いください」という札が掛けてあった。本資料は、「だれかがきれいにしてくれるのだから」という受け身的な考え方を克服して、気が付けば自分のできる範囲で実行しようとする気持ちを育てようとする意図したものである。また、掃除の後のさわやかな気持ちや水をくみに来た親子が美しくなった水を喜んでくっている情景についても考えさせたい。

この学習をきっかけに、子どもたちのこれからの生活の中で生じてくる問題についても主体的に考え、進んでボランティアにも参加できるような態度の育成を図りたい。

3 ねらい

公德について理解し、それを大切にしようとする心情を育てる。

4 板書

・だれかがそうじをしていてくれるんだな。
・自分がやらなくても、だれかがやってくれるだろう。
・みんなが使う水だし、ほくがそうじしよう。
・他の人がこまるから、そうじしよう。

みんなのわき水

けんちゃん こうちゃん

葉のいっぱいかんたわき水

・これは水をくめない。
・みんなのおいしい水が台なしだ。
・今までもこんなことがあったのかなあ。

・わき水が前のようにきれいになりうれしい。
・後から来た人が喜んでくれた。
・人のために役立つことができてうれしい。

3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 公共の施設が、たいへん汚れていたり、壊れたりしているのを見た経験について話し合う。</p> <p>(2) 資料「みんなのわき水」を読んで話し合う。</p> <p>① わき水にたくさん葉が落ちていているのを見て、こうちゃんは どう思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これでは水をくんで帰れない。 ・みんなのおいしい水が台無しで残念だ。 ・今までもこんなことがあったのだろうか。 <p>② 「ご自由にお使いください」と書いた札を見て、こうちゃんはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれかがやってくれているんだな。 ・自分がやらなくてもだれかがやってくれるだろう。 ・みんなが使う水だし、放っておいてもきれいにならないからそうじしよう。 ・他の人が困るから、そうじしよう。 <p>③ どうしてほうきが置かれていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもきれいな水であってほしいから。 ・わき水が汚なくなったら、気が付いた人がほうきを使ってきれいにして飲めるようにするため。 ・一人一人が、そうじしてわき水を大切に、みんなのことも考えられるようになってほしいから。 ・みんなが少しでも人の役に立つことができるようになってほしいから。 <p>④ そうじの後、こうちゃんたちはどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前のようにわき水がきれいになりうれしい。 ・後から来た人が喜んでくれてうれしい。 ・人のために役に立つことができてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値にかかわる意識をもつことができるようにする。 ・こうちゃんの気持ちを考えることによって、こうちゃんの気持ちに共感することができるようにする。 ・だれかがきれいにしてくれると考えたことも含めて、自分がやらなくてもいいだろうという思いや迷いがあったことを推察することができるようにする。 ・ほうきを置いてくれた人の願いについて考えることができるようにする。 ・体験活動などと結び付け、ごみ箱やそうじ道具の設置の意味を考えることができるようにする。 ・みんなが住みよく暮らすためには、相手の気持ちを考えた行いが大切なことに気付くことができるようにする。 ・自己の生活を振り返ることにより、公德を大切にしようとする意欲を高めることができるようにする。 ・だれにでもできることで、見逃しているような事例を紹介してしめくくる。
<p>(3) 自分たちの生活について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校、乗り物、道路その他の公共の施設で、今までみなさんがしてきたことについて話し合ひましょう。 ・学校のトイレで、トイレトペーパーがなくなったので、次の人のために付け加えた。 ・汽車に乗る時に順番を守って並んで乗った。 ・教室のボールをみんなで仲よく使っている。 	
<p>(4) 教師の話聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動場のごみや空きかんを自分で拾っている子がいたんですよ。 	